

白夜

第 39 号



完成した雪像

北海道スウェーデン協会

2018. 7

ご挨拶

加藤 誠

北海道スウェーデン協会は、今年2018年11月で創立40周年を迎えることになりました。同じ年、日本ースウェーデン修交150周年というこ
とで、これらを併せて記念する行事が、去る2
月のさっぽろ雪まつりHBC広場のストックホ
ルム大聖堂雪像製作の後援をはじめとして、現
在も進行中であります。

ところが、会長としてこれを推進して来られ
た杉本拓様が、御事情により退任され、そのあ
と最古参の会員である私が会長を仰せつかるこ
とになりました。

私は、初代湊正雄会長、二代目秋山崑代様に
理事として、また三代目杉本拓会長には事務局
長、理事長として仕え、長らく機関紙“白夜”
の編集に当って参りました。

私とスウェーデンとの関わりは1967年に始ま
ります。1年間ストックホルム大学に勤めたこ
とによります。スウェーデンは自然が美しく、
人々が優しく、国が豊かで、私は一ぺんにス
ウェーデン大好き人間になりました。その後も
数度スウェーデンを訪れましたが、この思いは

変わりません。もっとも物価が高目だと、いつも
思います……。

今後は、20年にわたって協会をリードして来
られた杉本様のあとを、企画力、行動力に富む
横山隆理事長、目黒聖直事務局長、常任理事、
理事、会員の皆様の御協力を得て、やって行き
たいと考えております。また、北海道国際交
流・協力総合センター、スウェーデン交流セン
ター、ホイスコレー札幌との相互協力をすすめ、
協会の体質、体力を強化するため新会員の獲得
につとめたいと思います。

協会ははじめの頃、創立の貢献者秋山崑之進
様の人脈による会員が多かったのですが、最近
ではスウェーデン大好き人間の集まりとなっ
てきているように思われ、これこそが本来の姿で
あろうかと思えます。

さしあたり、11月の創立40周年記念式典を成
功させるべく皆様のお力を結集したいものと望
んでおります。どうぞ宜しくお願い申し上げま
す。

〈北海道スウェーデン協会会長〉

日瑞外交関係樹立150周年

杉本 拓

2018年は、1868年日本とスウェーデンの外交関係を樹立して150周年の記念すべき年です。両国ではそのことを記念して様々な行事が企画・実施されておりです。

東京においては「ルドベック・リンネ・ツユンベルグ ウプサラ博物館三大遺産より」展に天皇・皇后両陛下とスウェーデン グスタフ国王夫妻が訪問、鑑賞されたとの報道がありました。北海道においては、去る2月のさっぽろ雪まつり大通会場にストックホルム大聖堂の大雪像がHBC・北海道放送棟によって制作され、大きな感動のうちにスタートしました。

3月にはエステルヨートランド州知事一行が来札され、ビジネスイミナターが開催されました。これからもダララナシンフォニエッタが来札し札幌コンサートホールで札幌フィルハーモニー管弦楽団との共演や日瑞ガラス・木工作品展が芸術の森ほかで開催されることが決まっています。

そのほかにも姉妹都市交流事業、スウェーデン・ブックフェア、ホテルにおけるスウェーデン料理を中心としたフェアなど多くの企画が実施されています。

これら諸行事は私たちスウェーデン協会、北海道国際交流・協力総合センター、スウェーデン交流センターほか関連団体と連携して実施していますが、このスタートは2013年に遡ります。

同年2月在スウェーデン渡邊芳樹日本大使(当時)が来札し「未来のために日本とスウェーデンの出来ること」と題して講演され、その後南国の出張先から吹雪の中札幌に到着したラーシュ・ヴァリエ在日スウェーデン大使(当時)と共に「両国で2018年に向けて何ができるか」と熱く語り合ったことから発展したものであります。

この間、東海大学の任を終えてスウェーデン

に帰国した当会顧問でもある川崎一彦氏が、度々来札されてワークショップを開催したなかで様々なアイデアが出されました。

このように時間をかけて計画したものが一つひとつ実行に移されていくことに感慨深いものがあります。

これら記念の諸行事を今年だけのものではなく将来に向けて持続していくことの大切さを共有したいものと考えます。

これまでノーベル賞の国、スウェーデンモデルなどを学んだ国と今後更に強い絆で結ばれ、両国関係が発展していくことに期待したいと思えます。

〈北海道スウェーデン協会顧問〉

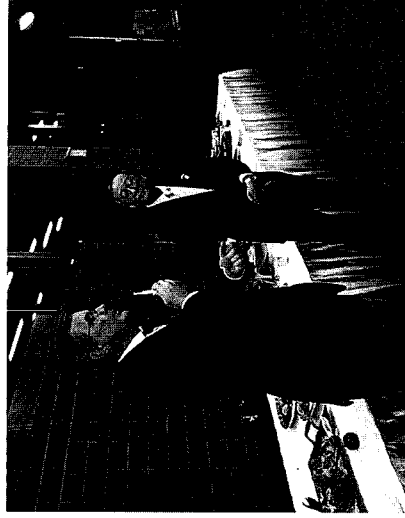
Beyond 2018 ——2018年を超えて

川崎 一彦

札幌で始まった2018年の議論

2018年は日本とスウェーデンの国交樹立150年の記念すべき年です。

このお話を初めて伺ったのは、2013年2月、渡邊芳樹・在スウェーデン日本大使(当時)とラーシュ・ヴァリエ在日スウェーデン大使(当時)の対談(写真)でこの件が取り上げられた時でした。その後両国で2018年に向けて何が出来



そうか、についての議論が展開されてきました。スウェーデンではストックホルム商科大学日本研究所のライブラリーなどで一連の研究会を開催して共通の関心を議論してきました。

2018年に入ると、すでに両国で日瑞間の様々なイベント、交流が目白押しです。

北海道関係でも、さっぽろ雪まつりのストックホルム大聖堂 (HBC広場)、エストルヨートルンド県知事ミッション (3月、セミナー)、北海道×スウェーデンフエア@センチュリーロイヤルホテル、紀伊國屋スウェーデン・ブックフェアなどに続き、9月にはダーラナシンフォニアエッタコンサートなどが予定されています。

しかし、両国の交流は今年の12月31日で全て終わるわけではありません。

むしろ今年2018年に明らかになる両国の共通の関心や課題を来年以降もメンテして育てていくことは、それ以上に大切ではないでしょうか。この課題を私は“Beyond 2018”と呼んでいます。

ここでは、私自身が関わってきたエストルヨートルンド県知事ミッション交流のケースから“Beyond 2018”の課題や方向性について考えてみたいと思います。

エストルヨートルンドと北海道は数々の交流実績があります。

スウェーデン手工芸展in Sapporo (2004年5月)、Hokkaido Style in Linköping (2006)、北海道生産性本部代表団のノルチョーピングのカルチャーナイト参加 (2010) などこれまでの交流に関わらせて頂いたので、エリサベート・ニルソン知事の訪日ミッションの話があった時に、私は当然お手伝いをしたい、と思いました。

またエストルヨートルンド県としては初めての女性知事であるニルソンさんのお人柄と力量にも魅了されました。

札幌では北海道スウェーデン協会、スウェーデン交流センター、センチュリーロイヤルホテル等のご尽力で多くの歓迎関連イベントが企画されました。

札幌唯一の地元資本のシティーホテルであるセンチュリーロイヤルホテルでは、3月1日～31日の間、スウェーデンに姉妹都市を持つ北海道内当別町と枝幸町の食材を利用してスウェーデンをテーマにした特別料理を提供されました。

センチュリーロイヤルホテルのロビーでは、スウェーデンやエストルヨートルンドの写真パネルや観光情報、また、スウェーデンに親しみを感じてもらうため、東海大学国際文化学部学生がつくった創意工夫溢れるスウェーデン紹介パネルなどが展示されました。

3月5日～25日、同ホテルと隣接する紀伊國屋書店札幌本店では、スウェーデン関係の書籍のスウェーデン・ブックフェアが開催されました。

アステイ45ビルでは、3月23日～25日に、スウェーデンの代表的なアウトドア製品のメーカー・ホグロフスの製品やボルボの乗用車、スウェーデン・レクサンド市と姉妹都市である当別町の30年におよぶ姉妹都市交流活動の様子を示したパネルなどが展示されました。

3月23日午後には、センチュリーロイヤルホテルにて、エストルヨートルンド県と北海道との経済交流の可能性を探るビジネスセミナーが開催されました。とくに世界五指に入るとされるリンチョーピング大学のヴィジュアリエーション技術とその応用は参加者を魅了しました。

〈エストヨータテキスティール作品展「四季」〉
3月24日～5月7日、スウェーデン交流センターにて、スウェーデン・エストルヨートルンド県内のテキスタイルグループ「エストヨータテキスティール」による作品展が開催されました。オープニングには知事らミッションも参加し、地元の方々との交流の機会がありました。

仙台のスケジュール

札幌に先立ち、仙台でも一行は以下のような

スウェーデン知事が 札幌のセミナーに参加



エリック・エリクソン知事
26日(水)午後5時
に、札幌市中央図書館で、札幌市観光局主催の「スウェーデン観光セミナー」に参加し、講演を行った。エリクソン知事は、「スウェーデンは美しい自然環境と歴史豊かな国であり、観光業が重要な産業である」と述べた。

スウェーデンは、自然環境と歴史豊かな国であり、観光業が重要な産業である。エリクソン知事は、札幌市観光局と連携し、観光客の増加を目指す。また、スウェーデンの文化や伝統を伝えるためのセミナーを開催する予定である。

スウェーデンは、自然環境と歴史豊かな国であり、観光業が重要な産業である。エリクソン知事は、札幌市観光局と連携し、観光客の増加を目指す。また、スウェーデンの文化や伝統を伝えるためのセミナーを開催する予定である。

スウェーデンは、自然環境と歴史豊かな国であり、観光業が重要な産業である。エリクソン知事は、札幌市観光局と連携し、観光客の増加を目指す。また、スウェーデンの文化や伝統を伝えるためのセミナーを開催する予定である。

札幌市観光局は、スウェーデン知事の講演を通じて、観光業の発展を促進する。また、札幌市観光局は、スウェーデンの観光客を呼び込むための取り組みを実施する。さらに、札幌市観光局は、スウェーデンの観光客を呼び込むための取り組みを実施する。

23面に探る見る

札幌市観光局は、スウェーデン知事の講演を通じて、観光業の発展を促進する。また、札幌市観光局は、スウェーデンの観光客を呼び込むための取り組みを実施する。さらに、札幌市観光局は、スウェーデンの観光客を呼び込むための取り組みを実施する。

観光、航空産業…スウェーデンを紹介



観光、航空産業…スウェーデンを紹介。札幌市観光局の知事ら出席しセミナー。スウェーデンの観光資源や航空産業について紹介された。

札幌市観光局の知事ら出席しセミナー。スウェーデンの観光資源や航空産業について紹介された。

北海道新聞2018年3月21日朝刊

北海道新聞2018年3月24日朝刊



仙台勝山館のレセプションでは宮城学院女子大のよさこいチームと一行も一緒にエンジヨイ

中身の濃い日程を消化しました。

3月21日 音楽により地域振興を図る加美町視察 (国立音楽院、パッハホールなど)

猪俣文洋・加美町長ご自身が作詞作曲された地元の若者を励ます歌のミニコンサートがサブライズでパッハホールでありました。町長自らギターを弾き歌われスウェーデンの参加者も感

動でした!

仙台の迎賓館と言われる勝山館におけるスウェーデン教育セミナーhttp://web.mgu.ac.jp/event/3096.html アウトドア教育、ヴィジュアルゼーションなど。レセプションで一行は宮城学院女子大生と一緒によさこいを踊り、サイコーでした。

3月22日 川端宮城県副知事表敬訪問 郡山
台市長表敬訪問

幼保連携型認定こども園「森のこども園」視
察。ニルソン知事 講演会「スウェーデンの女
性活躍と課題」[http://web.mgu.ac.jp/event/
3111.htm](http://web.mgu.ac.jp/event/3111.htm)

岩沼市千年希望の丘（記念植樹） ミッション
は東日本大震災被災者への思いを新たにされ
ていました。

Beyond 2018—2018年を超えて

ニルソン知事にも、ぜひ今回のミッションの
反省とこれからの方向について話しあうfollow
upミーティングをするよう提案しましたら、
“それはもちろんやる”とのことでした。

リンチョーピング大学は1975年創設のまだ若
い大学です。アウトドア教育、ヴァイブアリゼー
ションなどはもちろん、半世紀弱で世界でも
300位内のランキングをゲットし、学生の就職
ではスウェーデンでトップです。その理由とし
ては、学際的、テーマによる学科と学び、
problem-based learning など を Maria
Engelmark 国際部長はあげられました。

2018年問題など日本の大学間競争は熾烈で
す。リンチョーピング大学の成功の背景につい
て詳しく学ぶ機会を作りたいものです。

ニルソン知事は8月にリタイアされますが、
自然散策が趣味で、今度はパートナーと一緒に
インバウンド観光で日本に戻って来たい、と
おっしゃっていました。

インバウンドとアウトバウンドの観光交流も
期待されます。

アウトバウンドとしてはエステルヨーヨーラン
ド県で欧米人に人気のBirgittaledの巡礼トレッ
キングの旅なども日本人でも関心をお持ちの方
は多いのではないのでしょうか。

近年エステルヨーヨーランド県知事ミッション
は中国やベトナムにも行かれたそうですが、今
回の日本がサイコーに良かった、皆様のおもて
なしは決して忘れないとの評価を頂きました。

残念ながら今日のスウェーデンでは日本の経
済的優先度は必ずしも高くはありません。ス
ウェーデンのアジアへの輸出相手国としては、
中国がトップ（輸出合計の6%、6位）で日本
（1.7%、14位）に大きく水をあけています。ポ
ロボのオーナーも2010年以來中国資本です。

しかし、日本に関心を寄せて下さるスウェー
デン人は確実におられます。たとえばSweden
Japan Parliamentarians Association（瑞日国会
議員連盟）はスウェーデン国会における国別の
連盟としては最も古く、メンバーも最も多い
（Lena Asplund会長）とのこと。

エステルヨーヨーランド県のように日本に関心
を寄せて頂けるスウェーデンの地域は言うま
でもなく重要で大切にすべきです。

2018年を超えて今回のミッションの訪日で繋
がったコンタクトから、今後のコラボの可能性
を一緒に考えていきたいものです。

〈北海道スウェーデン協会顧問、

東海大学名誉教授〉

第69回さっぽろ雪まつり HBCスウェーデン広場大雪像は 「ストックホルム大聖堂」

横山 隆

平成27年3月3日、杉本会長、加藤理事長、
横山隆の三名で北海道放送（HBC）事業局を訪
問し、2018年2月開催のさっぽろ雪まつりにス
ウェーデンに縁の大雪像制作依頼を行ったとこ
ろからこのプロジェクトはスタートしました。

杉本会長は、日瑞国交樹立150周年を迎える
2018年（平成30年）の記念行事の一つとして、
以前よりスウェーデンの建造物を模した「さっ
ぽろ雪まつりの大雪像」を構想しており、その
手がかりを探しておられました。2010年（平成
22年）以後をとりましても、HBCの国際広場は、
2010年ドイツ広場「フラウエン教会」、2011年北

京広場「天壇祈念殿」、2012年インド広場「タージマハール」、2013年タイ広場「ワット・ベン・チャマポピット」、2014年マレーシア広場「スルトン・アブドウル・サマドウル・ビル」、2015年フィリピン広場「マニラ大聖堂」、2016年マカオ広場「聖ポール天主堂跡」、2017年フランス広場「凱旋門」と続き、それぞれ各国政府観光機関や昨年フランス広場では中央競馬会JRAが「パリ凱旋門賞レース」のPRを目的にメインスポンサーとして制作を支援していました。

平成27年3月の初回HBC事業局訪問時にメインスポンサーの有無を問われ、乗り越えなければならぬハードルの高さを実感させられました。その後、スウェーデンにご縁のある企業などに打診しましたが、捗々しい感触すらなく途方に暮れた1年間が経過しました。北海道スウェーデン協会として、どこかの時点で結論を出さねばならいと判断し、平成28年10月に、「国際広場大雪像」制作のために派遣される現地調査隊の渡航及び現地調査費用の支援は可能だが、大口スポンサーは確保できない旨、HBC事業局へ申し入れを行い、事実上、雪像制作要請を断念しました。

断念したとはいえ、年が明けた平成29年春から夏にかけては、HBC事業局の「国際広場」候補国選びの動きを注視し情報交換を続けていました。2018年に国交樹立150周年を迎える国は、スウェーデンのほかスペイン、アイルランドがあり、そのあたりの打診状況を気にしながら国選定のタイムリミットの8月を迎えました。

平成29年8月3日にHBC事業局の突然の訪問を受け、「第69回さっぽろ雪まつり大通7丁目会場はHBCスウェーデン広場」としたい。大口スポンサーに頼らず、国際親善の本意に立ち返って自主事業で行うのご協力をお願いしたい」との申し出を受けた際の驚きと昂揚感は今でも忘れられることができませぬ。平成28年10月に申し入れた北海道スウェーデン協会としての支援策の確認や、在京スウェーデン大使館の接触窓口（ビクトリア公使）などの情報伝達を行

い、その後の手順を慌ただしく決めていききました。幸いにも、ストックホルム在住の川崎一彦東海大学名誉教授（本協会顧問）の全面的な協力のお申し出があり、現地調査のスケジュールと万全なサポート体制も短時間のうちに組みあがりました。

大使館の協力も得ながら「雪像にふさわしい建物」の選定を行い、いよいよ平成29年10月2日月曜日、塚越さん（HBC事業局）、押之見雪像制作統括（さっぽろ雪まつり大雪像制作委員会第三制作部会）、高木班長の三名がストックホルムに向けて出発しました。ストックホルム・アーランダ空港には川崎名誉教授が迎えて下さり、ストックホルムのホテルでは日本大使館伊藤一等書記官が御挨拶に向向いてくださいました。

翌3日火曜日早朝より、雪像のモデルとなる「ストックホルム大聖堂」の調査に取りかかりました。レーザー測距機器や巻き尺を用いての測量と細部のスケッチにより雪像制作図面の描写のためのデータ収集が一番の目的でした。また、太陽の当たる角度により、建物の陰影の濃淡が変わるため、太陽光が建物正面から当たる早朝からの作業となり、テロ警戒中のストックホルム市警の尋問を受けたこともあるそうです。幸いにもその時同行していた伊藤書記官が事情を説明して下さり、事なきを得たそうです。

ストックホルム大聖堂は市内の旧市街ガムランスタンの高台に13世紀に建造された物で、14世紀以降大きな増改築が行われ大時計や鐘楼を持つ現在の姿になっています。大聖堂は王家の儀式も行われる由緒ある教会で、1976年には現国王カール16世グスタフ国王の結婚式、2010年にはビクトリア皇太子の結婚式も行われました。また、毎年9月の国会の開会式に伴う礼拝が行われ、国王、王族、国会議員が出席します。

聖堂前中央にある人物像は、宗教改革のため尽力した神学者オラウス・ペトリ牧師（1493年～1552年）で、大聖堂講壇の真下に埋葬されています。この人物像、ラテン語の銘板を含め

て、ストックホルム最古の教会の魅力をおおよそ縮尺1/2で再現しようと、4日間の調査が続けられました。

帰国後直ちに測量データ・スケッチ及び写真に基づき図面が引かれ、模型制作に取りかかり、12月15日には各種詳細図面と模型が完成して報道陣にお披露目されました。年明けの平成30年1月6日から雪積み作業が始まり、測量・雪の荒積み、彫刻・化粧雪貼り付けなどの工程を経て、2月2日金曜日に完成を見ました。2月5日月曜日の朝、ローバック駐日スウェーデン大使や秋元札幌市長らの臨席のもと雪像引き渡し式が行われ、さっぽろ雪まつりが開会しました。今年には幸いにも天候にも恵まれ、雪像の中間補修も大規模とならず、雪まつり閉会後の翌朝13日火曜日からの解体を無事迎えることが出来ました。

制作隊のみならず、ボランティアのみならずの早朝から深夜に及ぶご努力に感謝するとともに、ストックホルムでサポート頂いた川崎名誉教授、伊藤日本大使館一等書記官（現在復興庁に勤務）に感謝する次第です。

雪像制作データ

高さ：15m

幅：26m

奥行き：16m（台座を含んだ大きさです）

縮尺：実物のおおよそ1/2

制作：大雪像制作委員会第三部会、大雪像

制作ボランティア

制作人員：のべ1,200人（うちボランティア200人）

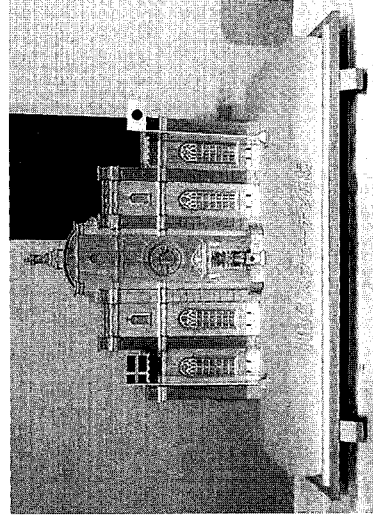
制作期間：27日間

企画：HBC北海道放送

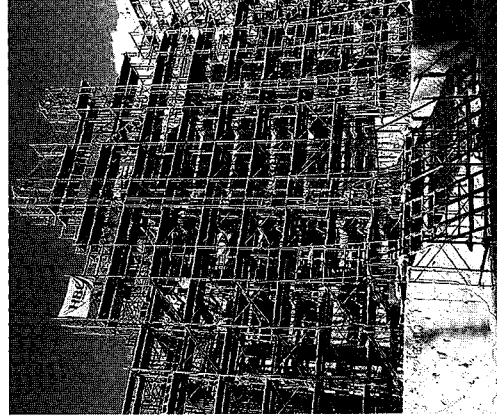
後援：スウェーデン大使館、北海道ス

ウェーデン教会

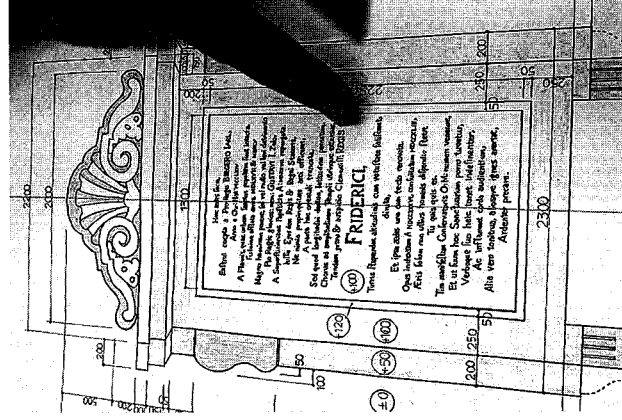
（北海道スウェーデン協会理事長）



ストックホルム大聖堂模型



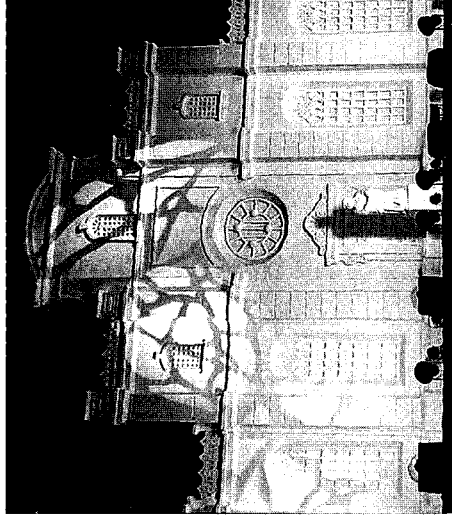
雪像の足場



大聖堂の銘板



作業員出動



夜間照明



夜間照明



ローバックスウェーデン大使

おめでとう！ カーリング女子スウェーデン金メダル、 日本 銅メダル！ 一泊二日平昌の旅

鈴木 岳

いやー冬季オリンピック、無事に終わってよかったですね。日本勢の連日の大活躍は素晴らしいかったです。特に今回はカーリングが男女ともに連日フル中継され、それに応えるかのようには選手たちも大活躍！ 日韓のカーリング競技の認知度を大いに高めた大成功のオリンピックでした。私はカーリング協会の委員もたずさわっている上に、選手としても男女代表と何度も試合をしたことがあるだけに、連日大興奮でした。そして、男女ともに決勝に進んだスウェーデン代表たちは私が2007年から11年の間に所属したストックホルムのスピンビバリーカーリングクラブ所属の選手たちです。当時は中学生、高校生、大学生だった彼らが男女ともに決勝を戦うのですから、もう応援したくて居ても立ってもおられなくなり、急遽、2月24日の土曜日に平昌に飛んでしまいました！ そして日曜日に決勝を見て帰国するという旅を強行しました。チケットを購入した時は日本女子の決勝進出もあるな、と期待していたのですが歴史に残る名勝負のちに惜しくも韓国に敗れてしまいました。それでも開催国、韓国の熱狂的な雰囲気の中で女王スウェーデンがどのように戦ったのか、その雰囲気を感じるのはまたとない貴重な経験になるはずです。そしてアジアのチームが決勝で戦うのはカーリング史上初の快挙です。そういう意味でも大変に歴史的な決勝となるでしょう。

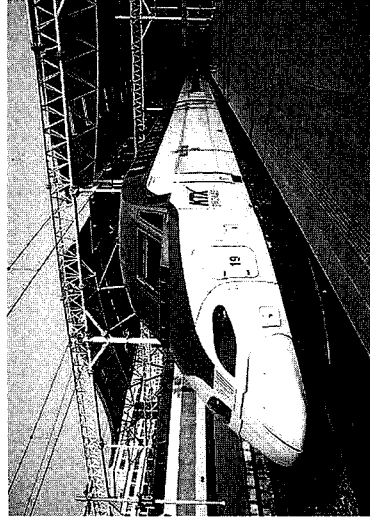
とはいえ、私は韓国に行ったことがあります。札幌からソウル（仁川空港）便を検索すると随分たくさんの方が飛んでいるんですね。直航便があるとは知っていましたが、これほど簡単に往復できるとはびっくりです。国内の地方

便よりも便利ですね。往復便をネットで購入。次は決勝のチケットです。でも、私が行くと自動的に決めたのは5日前。当然、正規チケットはありませんでした。しかし、これもネットで転売サイトがあり、入手することができました。初めての韓国。現地での買い物は現金が中心なのでしょうか？ クレジットカードがメインなのでしょうか？ 田舎でも英語は通じるのでしょうか？ 着いたら電車のチケットをうまく買えるでしょうか？ カーリング競技場のある江陵市（カンヌン）のホテルにうまくどどり着けるのでしょうか？

行きはジェジュ航空という韓国の格安航空を利用しました。客の99%は韓国人らしく、早くも異国情緒が漂います。でも受付も機内も日本語で対応してくれます。それにしても千歳の国際線カウンターの混雑ぶりを見て、毎日、こんなにたくさん外国人が来道していたのだと驚きました。仁川到着後、平昌はカーリング競技が行われている江陵市に高速鉄道で行かねばなりません。そのチケットを買おうとしたら、なんと帰りのチケットが無いと言われてしまいました。これでは行っただけで、翌日の日曜日に戻れなくなってしまいます。駅員は無情にも帰りは江陵駅で相談せよと言います。半ば混乱しながらも片道切符で行くことにしちゃいました！ 電車の中でネットで帰りのチケットを探していたら突然、空席が現れ、購入することができ、ことなきを得ました。それにしても電車のチケットをあらかじめネットで買っておかなかったのは大失敗でした。危ない、危ない。

ネット社会は便利になりましたね。家のコンピュータだけでなく、携帯電話でもスカスカとインターネットでチケットが買えます。それがなければ、こんな強行軍は不可能でした。

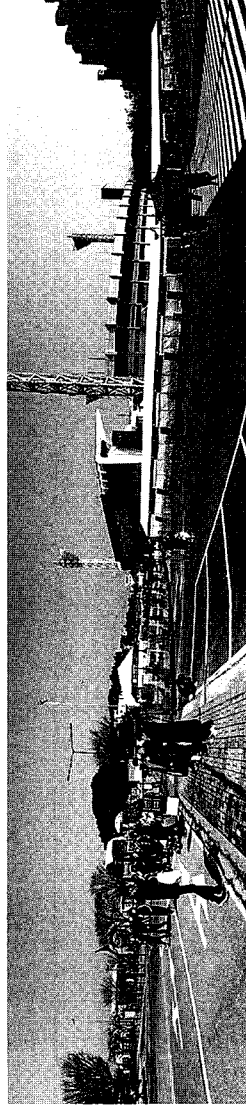
さて、仁川空港からの平昌へ向かう超特急KTXは最高時速が300kmは出る新幹線の触れ込みでしたが、そんなに速い感じはしませんでした。どうも、途中駅が多すぎてスピードを出せないのだそうです。それで朝鮮半島を西から



韓国超特急 KTX



江陵市の繁華街



五輪江陵市会場

東へ横断することになるのですが、約2時間半でつきました。朝鮮半島の大きさが何と無く想像つきました。江陵市は北朝鮮から南へ80km、朝鮮半島の東海岸にある小さなビーチリゾート地です。実のところオリンピック用の立派な駅や競技施設は美に街の規模にそぐわない立派なものでした。田舎の山あいに忽然と建設された施設は終わったらどうするのだろうか？

夜10時半に無事、江陵市に到着しました。こ頃ちょうど女子カーリングで銅メダルをかけた日本対イギリス(スコットランド)戦が終わったところでした。ネットで石の配置だけをライブで見ることができ、延長かと思っていたら銅メダルが転がり込み、一人で感涙してしまいました。日本カーリング界、悲願のメダルでした。私たちと何度も対戦したり、一緒に飲んだ選手たちですから。

夜の江陵市で予約していたモナリザホテルを探します。地図上は駅の裏手、歩いてもそう遠くないはず。その方面に歩いて行くと何となくネオンが多くなくなってきました。突然国際化し

た駅とは違い、素の江陵の様相です。モナリザは繁華街の裏通りの薄暗いところにあり、襲われなにか不安になる雰囲気でした。こんな所で拉致されたらどうしようもないよなあ、なんて不安がよぎります。モナリザとは車が泊められるホテルが正式な意味ですが、日本ではラブホテルです。ここもそんな感じでした。ドアを開けると受付があり、もちろん韓国語しか話さないおばちゃんがかウンターに出てきました。カウンターは壁で仕切られており、古いパチンコ屋の景品交換所のごとき、手が一つ入る程度の小窓があり、そこでカギの受け渡しをするわけです。まあ、普段はきつとラブホテルです。そこが素泊まり13000円で一番安かったのですが、きつと五輪値段だったでしょうね。その裏通りも夜中に街灯がつき、明るくなりました。私はどうやらビーチリゾート地の繁華街に宿をとったらしかったのです。雰囲気はススキノの南側の外れのような感じです。

遅い晩御飯を食べに繁華街の入り口付近をぶらつくときと女性のダンスショーやらキャバレーら

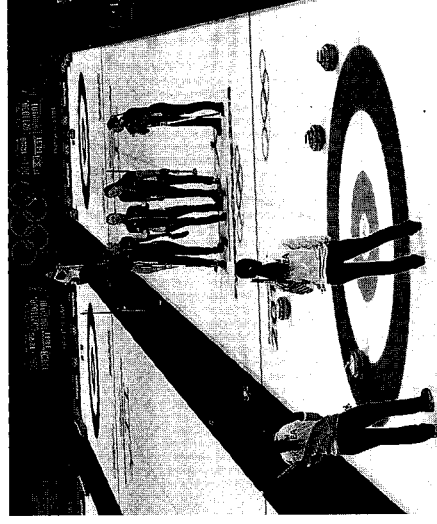
しき店がちらほら見られました。客引きもいました。興味はそそられれど、危険な目にいたくなければ海外でこんな店は避けるに限ります。どの飲食店もハンブルしかないのです。普通の飲食店もハンブルしかありません。海のない街なので海鮮小料理屋さんに入りました。メニューに写真も英語もなく、店には誰も英語を話せる人はおらず、あえなく撤退。むかえの小さな焼肉屋に入ると写真付きメニューがありました。写真付きメニューがあればどうにかなる、と飛び込みました。ここでも韓国語しか話さないおばちゃん一人が出てきました。ビビンバのような写真を指差すもの、何かこちゃこちゃ言って注文を受けてもらえません。ここでおばちゃんは隣の席に座っていた若い夫婦に助けを求めたようでした。幸い、その二人はオリンピックボラントイアに応募したソウルからの人たちでした。英語と日本語で助けてくれました。おばちゃんは「ビビンバは副菜だからメインの肉料理も選べ」というオオススメを言っていたようです。でもその肉料理のほとんどがユッケとか肉の刺身料理ばかりで困りました。なま肉は食えないと告げると、仕方ないわね、という表情で「ユッケの肉を加熱してあげる」ということになりました。韓国では生の獣肉を食べるのは珍しいことではないのでしようが、医者をやっているとは、生の獣肉に多い病気が頭をよぎります。生は無理っ！

加熱ユッケを目の前で色々な“赤い”ソースをかけてから混ぜてくれました。目の前にあった料理は混ぜる前は緑の野菜や茶色い肉などの異なる色彩があったのですが、混ぜ合わせられた後は真っ赤なひとかたまたまの物体に変化していました。それほど赤い塊でした。でも食べてみるとそれほど辛くはありませんでした。韓国料理の唐辛子は日本と種類が違っていると聞いたことがあります。見た目ほど辛くはありませんでした。美味しかったですよ。韓国ビール、ピルスナー 2種類も美味しかったです。

通訳してくれたご夫婦はその日に日本スケートが金メダルもとったことを教えてくれました。カーリングの選手たち、特に藤澤選手が大人気になってきていること、日本対韓国の熱戦などで話の花が咲き、互いの健闘を讃え合いました。私が札幌から来たことを教えると、「ぜひ行きたくて計画しているんだ」と目を輝かせてくれました。とても親切で友好的な二人でした。店のおばちゃんも安心したのか、帰りには思い出した日本語で「ありがたい、さようなら。頑張れー」と大きな声で見送ってくれました。その日はカーリング銅メダルの瞬間をネットでも何度も見ながら、眠りにつきました。

翌日のカーリング女子決勝は朝の9時からスウェーデン対韓国でした。友人のスウェーデンチームにお土産を渡すべく、早起きをしてシャトルバスで会場へ向かいました。入場の際は転売サイトからチケットが本当に使えるのか心配でしたが、何事もなく入場できました。そして席を探すと、なんと金メダルゲームの行われるシートの真正面、コート席と向き合ったカーリング観戦には特等席に相当する場所でした。カーリングの試合はシートの横から見ても石の曲がり具合がわからないので面白くないのですが、今回のシートはコーチボックスと同じようなものでカーリング通には最高の席でした。

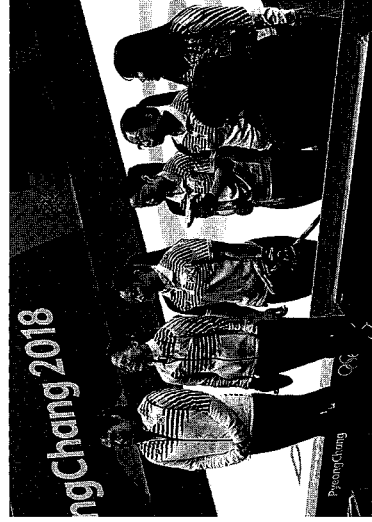
会場のボラントイアの学生さんたち、一般人



相談するスウェーデンチーム

たちもとても親切でした。片言の英語でシヨップの場所を教えてください、連れて行ってくださいました。はにかんで、とつても控えめな彼女たちは日本人の学生さんたちかとおもうほど似通った態度で可愛かったです。

決勝戦は韓国の大声援にも関わらず、スウェーデンと韓国の地方の差が出てしまい、しっかりとスウェーデンが勝ちました。大量点差の開いた9エンド。韓国チームは一瞬、みんなで意思を確認し、スウェーデンに歩み寄り、相手の勝ちを讀えました。礼儀正しい握手の後、スウェーデンは抑えていた大歓喜を爆発させ、敗れた韓国は奇跡の健闘を皆で泣き濡れながら抱き合って讀えていました。スウェーデンの友人たちの嬉し涙とアジアの友人たちの悔し涙の両方が胸を打ち、私ももらい泣きしてしま



整列して挨拶する韓国チーム

いました。大観衆のプレッシャーがかかった韓国チームは最後に整列し、声を揃えて「ありがとうございませう」と深々と観衆に挨拶され、観衆は暖かい拍手で讀えました。それがまた、日本の光景と重なり、ウルウルとしてしまいました。

メダルセレモニーでは日頃、私たちと何度も試合をした日本代表コロソラレーが表彰台に立つ光景は大感激でした。ここまでくるのにとくさん、たくさん負けて、ついに大輪の花を咲かせました。あっぱれ！です。カーリングは小さくても勝つ方法があるんだ。チビでも銅！多くの体格の恵まれない若者たちに勇気を与えた大活躍でした。

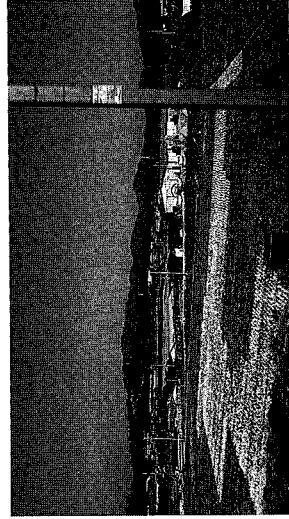
突然に敢行したオリンピック観戦ですが、行ってよかったです。ピョンと行ってチヤンと帰ってきましたよ。やっぱり、その国のこと、人々の雰囲気は行ってみたいとわからないます。百聞は一見に如かず。今回の五輪はまさに平和のための祭典だったと強く感じました。日本や米国では北朝鮮への制裁強化だとか、武力衝突辞さずのような報道がされていたが、それは随分と無責任で乱暴な政策だと思いました。

ソウルから外れて江陵市への景色はのどかな農村地帯ばかり。江陵市も海辺の漁村とちよつとした海水浴場のようなのどかなところでした。



メダルセレモニー





車窓の景色

そこは北朝鮮からわずか80kmしか離れていません。身振り手振りで一生涯懸命もてなされてきました焼肉屋のおばちゃん。通訳をしてくれた、札幌に来たいと言ってくれた若いご夫婦、会場の親切なボランティアーさんたち。そしてチームキム。その多くの振る舞いは慎ましく、礼儀正しく、非常に日本人の所作に似通った人たちでした

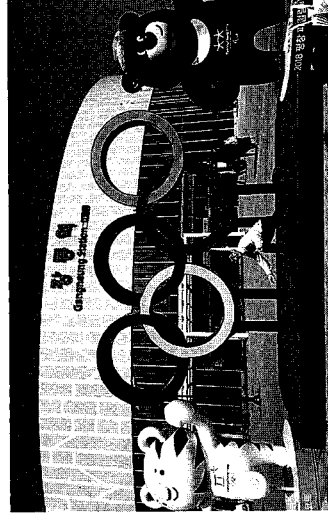
その彼らが戦火に巻き込まれていいはずがありません。戦争機運が遠のきそうな点では大成功な五輪でした。制裁一辺倒で窮鼠猫を噛むような事態になれば日本もタダではすみませんから。

日本のメディアはことさらに韓国に対して、揚げ足をとるような記事をよく載せますが、今回の旅行で出会った人々には実に親切で、日本人とそう変わらない人々でした。いや、それは韓国人に限らず、多くの人種において共通の感情を有していることの方が多いものです。例えば日本カーリング女子ではスイスに慰められ、スウェーデンに励まされ。小平選手の韓国選手との友情も然り。カーリングにかぎらず、多くの一流スポーツ選手たちは国際交流を通じて、国境を超えて仲良しが多い。スポーツの良さと人種を国を乗り越えられるところにもあると思います。そして韓国の人々はかくも日本人に似ているものなかと思いを新たにしました。方言のきつい地方に行くようなものです。

日本より進んでいると感じたところもありました。公共のITインフラは日本が負けていますね。仁川空港から平昌までの列車内、そして



ボランティアーと

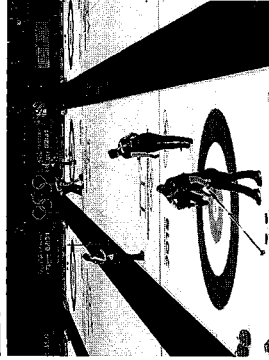


江陵駅前にて カーリングポーズ

会場内までwifiは完全に整備され、しかも速い。空港の待合の椅子には大抵コンセントとUSB端子がついている。携帯も速いし繋がりが良い。日本なみ。ヨーロッパよりも断然整備されていました。クレジットカードが予想をはるかに超えて浸透していました。結局現金を全く使わずに済んじゃった。

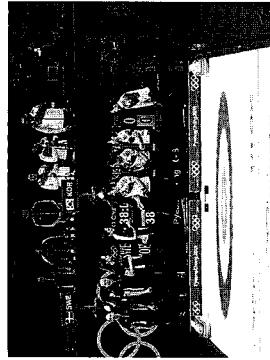
やはり、国内報道だけでは目が閉ざされた感じですね。スポーツ国際交流がどんどん進んで、草の根から相互理解が深まり、平和が続けば良いと切に願います。

〈北海道スウェーデン協会常任理事、
鈴木内科医院理事長・院長〉

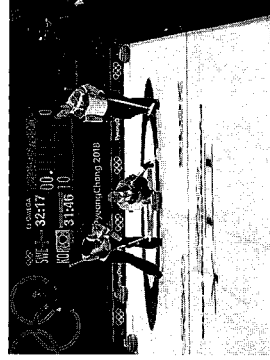


スウェーデン 試合前練習

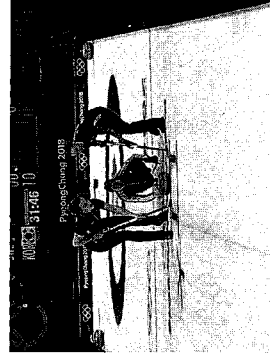
スウェーデン、グスタフ国王と金メダルを2連覇したアネットノルベリ選手も来ていました。



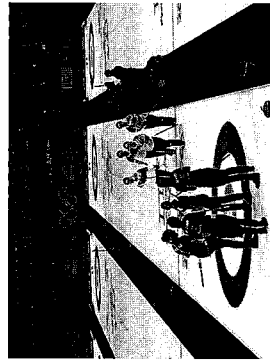
試合前の握手



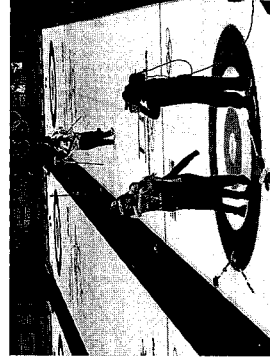
韓国 メガネ先輩ことスキップ キムヨンギョン



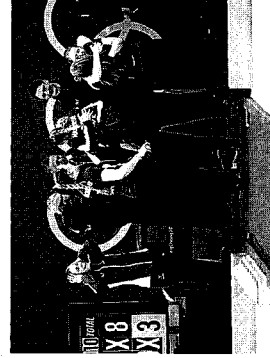
スウェーデン アンナハセルボリ



勝利を讃える握手を求める韓国



スウェーデンの歓喜



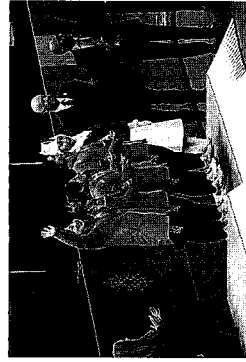
メダルセレモニー



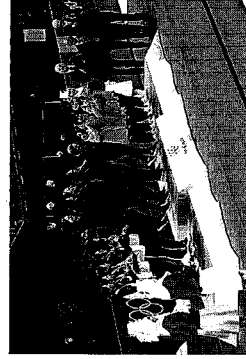
銅メダルをかけられ感涙するマリリンこと本橋麻里選手



男子代表両角選手、清水選手と



晴れやかな日本代表



金メダル スウェーデンの表彰

エストレルヨートランド県 知事一行来日と関連行事

横山 隆

3月17日土曜日に来日したエストレルヨートランド県知事一行は、友好と文化交流に加え日本とのビジネス交流・学術交流をしっかりと構築したいという目的を持っておられました。3月19日月曜日には明治大学にて学術交流、その後、スウェーデン大使館にて日瑞交流についてのレクチャーを受け、20日火曜日のランチミーティング（ビジネス界及び教育界）と知事後援会に望みました。

20日夜に仙台へ移動し、翌21日水曜日は、宮城県内グリーンツーンリズム視察およびスウェーデンセミナー2018 in 仙台（ビジネスミーティング）、スウェーデンセミナー記念パーティーに参加しました。

22日木曜日は村井嘉浩宮城県知事、郡和子仙台市長を表敬訪問した後、ニルソン知事他による記念講演が宮城学院女子大学で行われました。

23日金曜日に仙台空港から新千歳空港に入り、午前中、北海道大学 笠原副学長（国際担当）との意見交換の後、工学部、教育学部、アイントープ総合センターを精力的に視察しました。午後は札幌市長表敬（残念ながら秋元市長は市議会対応があり、国際部担当局長が対応）、北海道開発局長表敬（和泉局長他対応）のち、スウェーデンブックフェア開催中の紀伊國屋書店を視察してビジネスセミナー会場のセンチュリーロイヤルホテルに入りました。

ホテルロビーで開催中の「北海道×スウェーデン ロビー展」を見学してビジネスセミナーに臨みました。エストレルヨートランド県ビジネスセミナーは、

・ご挨拶とエストレルヨートランド県の紹介

エリザベート・ニルソン知事

・リンチョーピング大学と日本との学術交流
マリア・エンゲルマルク国際部長
アウトドア教育の理論と実践

アンデシユ・シェバンスキー博士
・ヴァジュアル（可視化）技術の急速な進化を支える多様な技術ライオンアップの紹介

アンデシユ・カールソン氏 (Visual Sweden)
アンデシユ・インネルマン教授
(Visualization Center, リンチョーピング大学)
アンデシユ・パーション教授
(Medical Image Science and Visualization) リンチョーピング大学)

・エストヨタテキスタイル—日本市場向けのスウェーデンデザイン

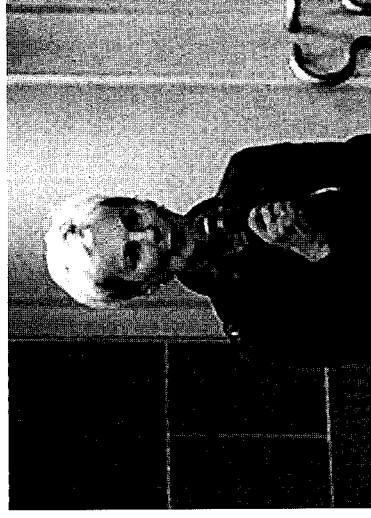
ウツラカーリン・ヘルステーション女史
(Ostergotlands Ullspinneri, Manager)

マリア・リンダール女史
(Maria Lindahl: textile design)

マリー・クリング女史
(Kling Kollektion, Manager: design)

の講演が行われ、充実した内容のセミナーとなりました。また、途中の休憩時間にエストレルヨートランド県特産のクネッキャブリーヨード（堅パン）と各種ベリーのジャム、アップルジュースやスモモのジュースが振る舞われました。

北海道経済部、札幌市経済局、HIECC、北海道スウェーデン教会などから60名を超える出席者があり、講演後も個別に熱心に質問される参加者の姿も見受けられました。



挨拶するニルソン知事

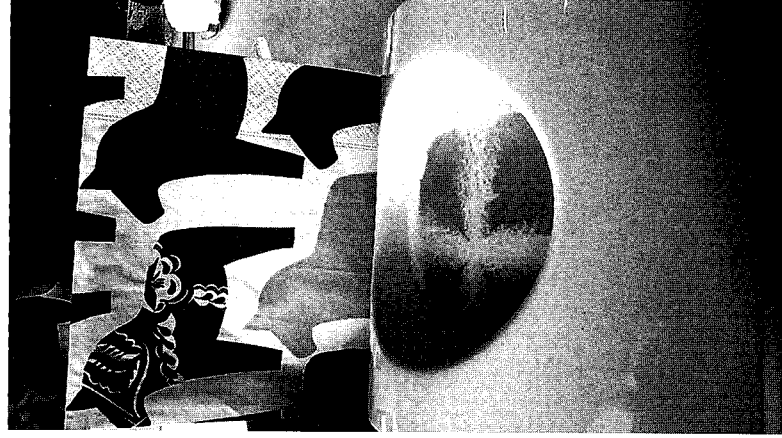
また、センチュリーローイヤルホテルのロビーでのパネル他展示やTVモニターによる観光情報提供、アステイ45ビル地下1階広場での展示（日瑞国交樹立150周年＋姉妹都市交流：当別町、枝幸町）、同ビル1階広場でのVolvo車両展示もあり、札幌駅西側地区（創成川EAST）に対抗してサツエキWESTと勝手に愛称を付けました）はスウェーデン一色となりました。

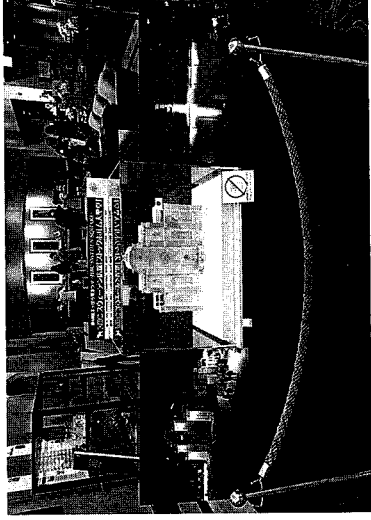
18：00からの歓迎レセプションは、アステイ45ビル地下 レストラランLani Kauを貸切って行いました。北海道からは窪田副知事他国際室長。広田まゆみ道議なども参加され、40名を超えるみなさんが楽しいひとときを過ごすことが出来ました。

エステルヨートラント県知事一行のメンバーは以下の通りです。

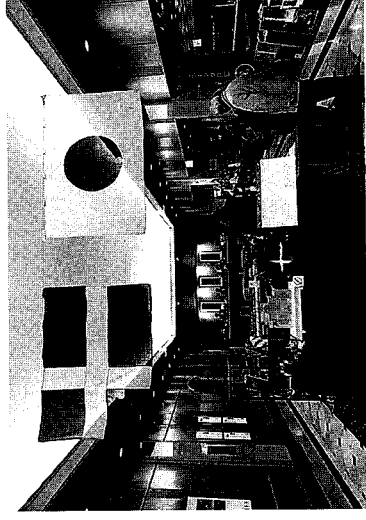
- (1) エステルヨートラント県知事
- エリザベート・ニルソン
- (2) 〃 国際担当 リンダ・ストローム
- (3) リンチョーピング大学教授
- アンデシユ・インネルマン
- (4) 〃 アンデシユ・パーシヨン
- (5) Visual Sweden アンデシユ・カールソン
- (6) リンチョーピング大学理学部長
- ウルフ・カールソン
- (7) 〃 国際部長 マリア・エンゲルマルク
- (8) 〃 国立野外教育センター長
- アンデシユ・シエバンスキー
- (9) エステルヨートラント・テキスタイル
マネジャー
- ウツラカーリン・ヘルステーン
- (10) 〃 デザイナー マリア・リンダール
- (11) 〃 デザイナー マリー・クリング
- (12) 東海大学名誉教授
- 川崎 一彦 (かわさき かずひこ)

〈北海道スウェーデン協会理事長〉





センチュリーロイヤルホテルロビー展示



ダーラナシンフォニエッタとの 国際交流演奏実現に向けて

～2018年9月来道・演奏会開催の準備進行中～

伊 東 充

最初にご連絡を受けたのは、2016年の5月のことでした。

内容は、「スウェーデンのダーラナ県の室内合奏団が2018年に来日を考えているので、協力してほしい」とのこと。

スウェーデン？ 2018年？ 室内合奏団？ そもそも何故、私たちがアマチュアの札幌フィルハーモニー管弦楽団へ連絡いただいたのか？ …次々と疑問がおこったのですが、それらのつながりを理解するのにそれほど時間はかかりませんでした。

2018年がスウェーデン・日本の国交樹立150周年という節目の年であり、様々な記念事業が計画されている。その一環として、ダーラナシンフォニエッタというプロのオーケストラが初来日（来道）する。については札幌での音楽環境の確認と記念合同演奏会の実現などを検討したい。その窓口として、札幌で最も歴史のあるアマチュア市民オーケストラで、これまで札幌の姉妹都市米国ポートランド市のオーケストラとの交流演奏を日米それぞれで数回実施した経験など国際交流の実績を持つ私たちに声をかけていただいた、…ということだったので。

これを機に、2018年の演奏ツアー実現の可能性、記念交流行事等の検討、さらには具体的な来日日程や最も大事な経費の問題など多岐にわたる検討が始まったのです。

そして、この計画については、全国に向け日瑞交流を推進されてきた北海道当別町のスウェーデン交流センターを中心に来日・運営・経費等について検討を進めると同時に、演奏会場確保、演奏曲目や楽譜、練習場所、さらには

楽器の手配（大型楽器はスウェーデンからの運搬は難しく、札幌でのレンタル利用となる）など音楽・演奏面については札幌フィルハーモニー管弦楽団側で検討・準備する形を軸として計画が推進されることになったのです。

さらに、今回の両国交流150周年については、そもそも国対国の事業であることであり、そのため北海道スウェーデン協会をはじめ、さまざまな組織・団体の支援も必要であることなどを考え、2017年8月に、北海道、札幌市をはじめとする関係自治体および団体代表者からなる「ダーラナシンフォニエッタ招聘実行委員会」を立ち上げました。

この間、メールを中心にスウェーデン側との確認も頻繁におこなわれるようになり、計画実施に向け具体的な動きが進行していきました。

こうした中、2017年9月には、ダーラナ側から責任者2名が来日、1週間の滞在中に、北海道、札幌市および当別町の関係部門、関連団体などを訪問するとともに、演奏会場として札幌側から提案した「札幌コンサートホールKitara」を見学、その素晴らしさに感激し演奏会場として即決するなど事業の具体化がさらに進むこととなりました。また、離日前には東京のスウェーデン大使館を我々札幌側の委員と共に表敬訪問し、さらには関係者との打ち合わせを行うなど、精力的にスケジュールをこなし帰国されました。

その後は、既知の間柄となったおかげでメールのやり取りでもお互いの顔を思い浮かべながら、より具体的な計画内容を双方で検討することができるようになっています。

2017年11月の時点で、2018年来日時期を9月中旬とするスケジュールの概要がほぼ確定し、経費面等具体的な詰めをさらにおこなっていくこととなりました。

なお演奏会については、9月20日(木)「ダーラナシンフォニエッタ演奏会 (Kitara小ホール)」を、さらに9月23日(日)にはKitara大ホールに

て札幌フィルハーモニー管弦楽団との日瑞親善合同演奏会を開催することが決まり、演奏曲目などについて双方で検討が進められています。

そして、指揮者には、ダーラナシンフォニーエッタ首席指揮者のダニエル・ブレンドウルフ氏を迎えての演奏となる予定ですが、彼は昨年6月、東京で読売日本交響楽団を指揮し日本デビューを果たしたばかりの注目すべき若手指揮者であることも今回特筆されるところです。

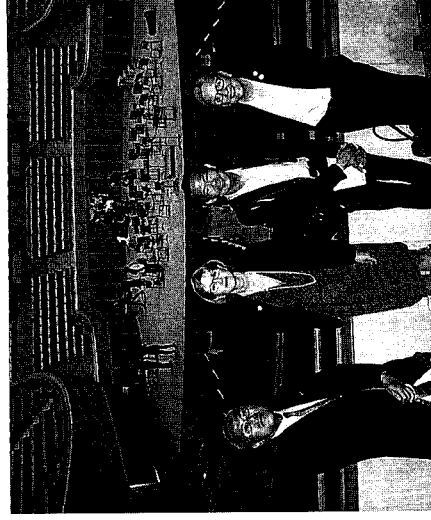
また、スウェーデンとの交流の歴史が深い当別町を訪れ、小中学校・高校の生徒を対象とした交流コンサート開催などもダーラナ側と共に検討されています。

今回国交樹立150周年を機に、日瑞相互の音楽交流をはかることにより、両国の音楽を互いに知りあうだけでなく、プロオーケストラとアマチュア市民オーケストラの国際コラボレーションという形の演奏会が実現すれば極めて画期的なものであり、その意義は大きいと考えます。

2018年2月、さっぽろ雪まつりのスウェーデン広場開場に際し来札されたローバック駐日大使と今回の計画についてお話した際、大使は既に概要をご存じで、時間が許せば是非Kitaraに来て演奏を聴きたい、とまでおっしゃっていたことができました。

2018年は、私たち北海道にとっても、命名150周年という節目を迎えています。その意味でも関係各位のさまざまなご支援をいただきながら、ダーラナシンフォニーエッタの9月来日に向け、さらに詳細な準備を進めていくこととなりますが、こうした活動は、両国の150年にわたる交流の中でもあらたな1ページを開くものになると同時に、我々札幌フィルハーモニー管弦楽団にとってもまたとない素晴らしい機会になるものと確信しております。

〈札幌フィルハーモニー管弦楽団運営委員長〉



2017年9月 Kitara大ホールにて
横山氏（北海道スウェーデン協会）、
カリンさん、高松氏（スウェーデン交流センター）、
エバさん【写真左より】



2017年9月 スウェーデン大使館訪問
おふたりと高松氏、伊東（左から3人目）



2017年9月 スウェーデン大使館前にて
おふたりと伊東

リトヴァアさん、オツシーさん、 かおりちゃんとの再会

鈴木 岳

カオリちゃんとの出会いは11年前に日本でスウェーデン語をご両親から習い始めた時でした。当時11歳の小学五年生の女の子でした。ちよつと普通と違ったのはご両親がフィンランド人だったのです。

フィンランドの公用語はフィンランド語とスウェーデン語で、フィンランド人の多くがスウェーデン語も話せるのです。当時、息子は5歳でカオリちゃんによく遊んでもらいました。ご夫妻はとても暖かく、朗らかに幸せそうに暮らしていました。よく、カオリちゃんのお下がりを息子にもらいました。スウェーデン語の授業はそこそこに、リトヴァアさんのお手製のシナモンロールとコーヒーをいただく時間が、とても楽しかった。リトヴァアさんは社交的で楽しい方でした。「おたくたち」というのが口癖で、その古臭いフレーズをフィンランド人が使うアンバランスを可笑しく思い出します。

カオリちゃんの生みの母はできるだけ日本で育てることを願いました。フィンランド人のご夫妻はその約束をはたしつつ、生まれてから10年以上、我が子として日本で育ててきました。

リトヴァアさんは、日本語とフィンランド語で育ててきました。でも生まれてからずっと、リトヴァアさんから日本語を学んだカオリちゃんの日本語のイントネーションは、ちよつと違いました。それに劣等感を感じていたのか、私たちの前ではあまり口を開こうとはせず、どちらからかというと内向的な影のある女の子でした。ただ、息子とはいつも仲良く遊んでくれ、日本語も話していたようです。

2007年、唐突に不幸がご一家を襲います。結婚用の教会牧師で生計を立てていたご主人が、会社からフリーになることを勧められます。その直後に解雇されてしまいました。要はフリーを勧めたのは解雇する方便だったのです。ちよつど、小泉政権になり、正社切り、派遣労働主体に大きく人件費カットが当たり前のようになった時期でした。正直で日本語の機微がわからぬご主人は首を切りやすかったのでしょうか。ひどいことをするもんです。そこからカオリちゃん一家は一気に困窮し、リトヴァアさん達は19年も住み慣れた日本を離れ、泣く泣く生活保障の厚いフィンランドへ帰る決断をしました。それは一重にカオリちゃんの教育と将来のためでした。

帰国後、リトヴァアさんは乳がんを患い、手術と化学療法を受けていると聞いていました。あれから10年が経ち、どうしても会っておきたくてこの夏、訪問しました。



ハメーンリンナの駅から街へ向かう公園で

ご一家は帰国後、転々とし、現在はヘルシンキから電車で1時間ちよつとのHämeenlinnaハメーンリンナという街に住んでいます。生計は教会のボランティアや生活保護と年金で質素ながら、なんとか暮らしていた様子が安心しました。すっかり年頃になったカオリちゃんは付けまつけにバッチリメイクをして出迎えてくれました。乳がんと闘病中のリトヴァアさんとも再会できました。いろいろな話をしましたが、一番感激したのはカオリちゃんが自信を持って、きれいな日本語でたくさんお話をしてくれたことでした。今の時代は誠に便利で、彼女はフェイスブックやラインで日本の友達と連絡を取り合っています。そこから自然と普通の日本語が話せるようになったのですね。フィンランドの中学、高校時代は家庭が貧乏でも授業料や教材費は無料、パソコンなどの教育資材の貸与もしてくれました。受験はありませんし、塾もありませんので家庭の経済力で進路が左右されることもない環境で学びました。そこで英語、イタリア語、ロシア語、フランス語を学び、日本語とフィンランド語を合わせると6カ国語を操れるようになったそうです。そして現在は大学に通い(大学も無料)、「夢はジャーナリスト。私は書くことが好きなので向いていると先生も応援してくれる。」と堂々と語ってくれました。

あの影のある無口だった小学生がすっかり成長したのを知り、感激しました。はたと気づけば、もう21歳。すっかり大人になっていました。恵まれない養子を育てることは北欧では珍しくないといえ、子供にとつては生みの親と育ての親が違う葛藤を乗り越えるのは大変なはずですから。まして小学5年生での移住はしんどかったに違いありません。今、彼女は生みの母とやりとりし、出自も知り、それを乗り越えて生きていけるようでした。生みの母がすぐにリトヴァアさん達に養子へ出したこと、リトヴァアさん一家が日本での生活に困窮した時、フィンランドに戻る決断をしたことはカオリちゃんにとつて最適だったように思います。もし、生活力のな



ハメーンリンナ城にてリトヴァアさん、カオリちゃんと

い家庭でそのまま日本に住んでいたら多言語を操れるような教育など受けられるはずもなく、全く違った人生になっていたはずです。

私は貧富の差なく、ひとしく教育の機会が保証された北欧の社会制度が大好きです。大人や国の役目というのは出自や家庭の経済力に関係なく、生まれてきた子供達の才能を開花させ、生きていく力を授け、この世は素晴らしいと思わせられる国づくりだと思います。それには子供達に生きていく力を授ける教育の力が必要です。北欧、ヨーロッパの制度に比べると、日本の制度はあまりに家庭や子供の経済負担が大きく、子供の教育自体がインフラではなく、金づる、消費商品になりすぎていると感じます。

別れの時、カオリちゃんは寂しくなったのか駅まで来てくれましたでした。ギュッと抱きしめて別れました。リトヴァアさん一家は授かった日本の子供に全ての愛情を注ぎ、こうして立派に親の務めを果たされたのです。見事な生き方だと感服しました。私たちを別天地へいざなってくれたリトヴァアさんとはまさに今生の別れとなりそうです。ご一家の幸せを祈りつつ、フィンランド、スウェーデンの爽やかな風に包まれ、帰って来ました。ひよっとしたら、協会の皆様にもヒルトネンご一家と交流のある方がおられるかもしれません。これからもカオリちゃん、ご一家にご厚情のほど、お願い申し上げます。

〈北海道スウェーデン協会常任理事、
鈴木内科医院理事 院長〉

北海道スウェーデン協会 平成29年度の主要行事

■ 6月18日 曜日

当別町夏至祭参加

[当別町スウェーデンヒルズ]

■ 6月23日 金曜日

平成29年度第1回常任理事会

[開発工営社会議室]

■ 6月29日 木曜日

平成29年度理事会、総会及び懇親会

[センチュリーロイヤルホテル]

〈講演会出席者22名、総会出席者17名・懇親会出席者17名〉

講師：Ms. Elanor Sezer (一財) スウェーデン交流センター職員、現在は駐日スウェーデン大使館職員)

[「私と思う日本人の異文化交流感覚」

協会誌「白夜」38号発行

■ 9月11日 月曜日

平成29年度第2回常任理事会

[開発工営社会議室]

日瑞国交樹立150周年記念事業・協会創立40周年記念事業・雪まつり大雪像制作協賛

■ 10月28日 土曜日

当別町レクサンド姉妹都市交流30周年記念行事参加

[当別町コミュニティセンター]

■ 12月10日 日曜日

第24回スウェーデンルシアを迎える会に協賛参加者：800名

主催：2017スウェーデンルシアを迎える会
後援：北海道スウェーデン協会

[恵庭市民会館大ホール]

■ 2月4日 日曜日

ローバック駐日スウェーデン大使歓迎新年交礼会

[センチュリーロイヤルホテル]

〈出席者25名〉

■ 2月5日 月曜日～12日 月曜日

さっぽろ雪まつり7丁目広場「スウェーデン
広場大雪像 ストックホルム大雪像展示」
[大通7丁目HBCスウェーデン広場]

■ 3月5日 月曜日～7日 水曜日

山崎 純 駐スウェーデン日本大使 枝幸町
訪問同行

枝幸町ソレフテオ市姉妹都市交流30周年記念
事業についての意見交換、視察

北海道スウェーデン協会横山事務局長同行

[枝幸町]

■ 3月5日 月曜日～31日 土曜日

北海道×スウェーデン 日瑞国交樹立150周年
記念+北海道スウェーデン協会創立40周年
記念展示 (スウェーデン紹介パネル、ガラス
工芸品、観光地映像、さっぽろ雪まつり大雪
像模型など)

[センチュリーロイヤルホテル]

■ 3月23日 金曜日～25日 日曜日

北海道×スウェーデン 日瑞国交樹立150周年
記念+北海道スウェーデン協会創立40周年
記念展示 (枝幸町ソレフテオ市姉妹都市交
紹介パネル、当別町レクサンド市姉妹都市交
流紹介パネル、スウェーデン発祥のアウトド
ア用品、ボルボ車など)

[アステイ45ビル地下1階+1階公開広場]

3月22日 木曜日～23日 金曜日

スウェーデン・ソレフテオ市の姉妹都市 枝
幸町物産展

[センチュリーロイヤルホテル]

■ 3月23日 金曜日

エステルヨートランド県ビジネスセミナーお
よび県知事一行歓迎レセプション
エステルヨートランドのテクニカルデザイン
ナーによる作品展

[センチュリーロイヤルホテル]

[アステイ45ビル地下1階レストラン

The Lani Kau Hawaii]

〈事務局〉

事務局だより

事務局長6年目になりました横山隆です。平成29年度も(公社)北海道国際交流・協力総合センター(ハイエック)、(一財)スウェーデン交流センターおよびホイスコスーレ札幌の皆さんと手を携えて活動させていて頂きました。厚く感謝申し上げます。

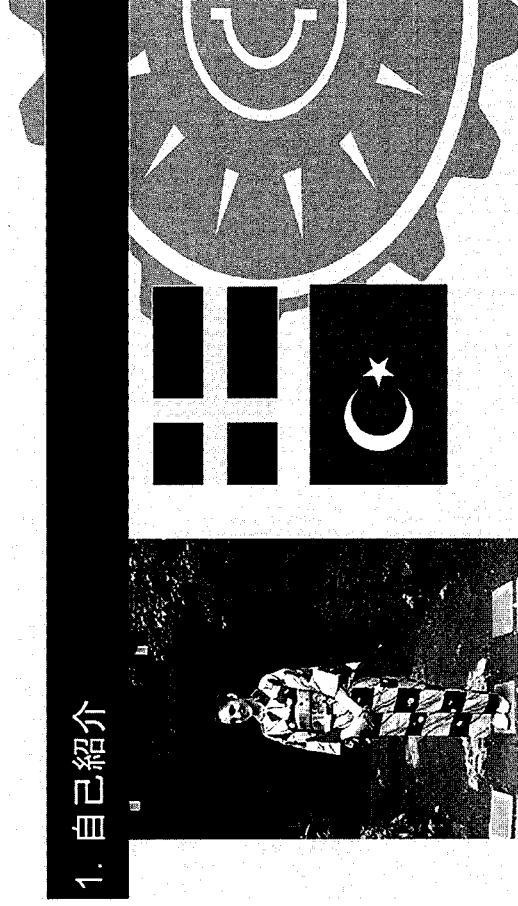
平成29年度の活動を振り返り、ハイライトでお伝えしておかなければならない事項を三つ挙げてみたいと思います。

一番目は、6月29日の平成29年度理事会・総会および講演会です。日本語の知識と日本文化への理解を活かし、日本の中でも大好きな北海道で働きたいと平成28年7月から当別町の(一財)スウェーデン交流センターに勤務されているエラノア・セザーさんをお迎えして、「私が思う日本人の異文化交流感覚」と題した講演をいただきました。ご自身が大学や社会で学んだ日本語や日本社会学を基に考える「日本人の異文化交流」について、スウェーデンや英国での経験も交えてお話いただきました。

エラノア・セザーさんは、2007年～08年スウェーデン・ウメオ大学ウエブ・デザイン学科、2008年～09年札幌国際日本語学院日本語コース、2010年～13年英国ロンドン大学日本文化及び日本語学科で学び、2014年～15年ロンドンのIT会社でマネージャーを務め、2015年から16年には再び英国オックスフォード大学で日本社会学・経済学を学ばれています。彼女の経歴が示すとおり、日本社会及び文化に造詣が深く、日本人の意識に潜む「思い違い」「偏見」「差別意識」特に「日本社会や文化はユニークだ」と言う思い込みなどに、鋭い刺激的な指摘と意見をいただきました。

最後にアドバイスとして、「自分の思い込みを意識する」「対人関係で壁を作らない、共通点を見出す、お互いにリスペクトする(尊敬する・思いやる)」ことの大切さに言及されたのが印象的でした。

エラノア・セザーさんは、現在、駐日スウェーデン大使館に勤務され、日瑞国交150周年記念事業を担当されています。



1. 自己紹介

3.1日本人の視点:「ユニークなジャパン」?

日本の文化はユニークだ

外国人は日本の文化を完全に理解することができない

外国人は日本の社会に同化することができない

日本の文化を外国語で理解することが不可能

外国人は日本語を完全にマスターすることができない

賛成 49%

賛成 63%

賛成 41%

賛成 66%

賛成 36%

3.2外国人の視点: 見た目・国籍で判断される



2018年は日瑞両大使館を中心として国交樹立150周年記念行事が企画され、本協会としても、在北海道スウェーデン関係諸団体と協力して、記念行事の企画を進めてまいりました。そのひとつが杉本会長の悲願でもありました「さっぽろ雪まつりに、スウェーデン関係の大雪像を制作する」ことでした。

3年に亘る杉本会長のご努力は別稿にてゆずりますが、2月5日～12日大通会場を中心に開催された「第69回さっぽろ雪まつり」において、大通7丁目会場はHBCスウェーデン広場と決定され、「ストックホルム大聖堂」の雪像が制作されることになりました。9月11日に開催した第2回常任理事会では、本協会の「大雪像制作」への全面的な支援方針が確認され、10月初旬の雪像制作調査隊派遣協力を手始めにした支援活動が開始されました。

二番目は、2月5日月曜日の「さっぽろ雪まつり開会式」出席のため、前日札幌入りされた駐日スウェーデン大使館ローバック大使をお迎えして開催された「ローバック大使歓迎新年交礼会」です。

2月4日日曜日センチュリーロイヤルホテル23階スカイレストラン「ロンド」で歓迎昼食会として行われましたが、枝幸町産の海の幸、当別町産の山の幸を素材にした「スウェーデン料理」が振舞われました。また、大使には2時間に1回転するレストランから見る札幌市内の風景も堪能いただきました。

Hokkaido Swedish Society Welcome Lunch - Participation list
 大使歓迎昼食会および交流会出席者名簿



Hokkaido Sweden Society Individual Members 【個人会員】		Japanese
1	Mr Sugimoto Taku Chairman	杉本 拓(会長)
2	Mr Kato Makoto Vice chairman <i>Founding member, geologist</i>	加藤(理事長)
3	Mr Usui Hiroshi Executive, Board of Directors	臼井 寛(常任理事)
4	Mr Yokoyama Takashi Executive, Board of Directors <i>Driving force behind the Society</i>	横山 隆(常任理事)
5	Ms Ogoshi Reiko Executive, Board of Directors <i>Founder of "Högskole Sapporo" - a swedish style högskola in Sapporo.</i>	生越玲子(常任理事)
6	Mr Suzuki Gaku Executive, Board of Directors <i>MD, PhD, formerly at Karolinska, speaking good Swedish</i>	鈴木 岳(常任理事)
7	Mr Meguro Masanao Executive, Board of Directors <i>Gov Auditor. Worked for Swe Embassy a few decades back</i>	目黒聖直(常任理事)
8	Ms Sakamoto Chizuru Executive, board of directors <i>Runs the café/shop FIKA in Tobetsu station.</i>	坂本 千鶴(常任理事)
9	Ms Tanaka Yumiko Board member	田中 与美子(理事)
10	Mr Echizen Masahiro Board member <i>HIECC (Hokkaido Intl. Exchange & Cooperation Center) Often shows support for the society.</i>	越前 雅裕(理事)
11	Ms Kakemizu Mieko	榎水 美枝子
12	Mr Sekiya Yukimasa	関谷 伸正
13	Ms Matsuyama Shinobu <i>Fluent in Swedish, does interpretation work</i>	松山のぶ
Corporate members 【法人会員】		
14	Mr Arai Ryuichi Executive, Board of Directors	荒井 竜一(常任理事)

15	Mr Kitano Hiroaki <i>Managing Director, Hokkaido Shimbun</i>	北野 宏明 (北潟新聞)
16	Mr Sugino Hideo <i>Managing Director, Swedish Center Foundation</i>	杉野 秀雄 (スウェーデン交流センター)
Non-members 【会員外】		
17	Mr Miyaji Masaki <i>Tobetsu Mayor</i>	宮司 正毅 (当別町長)
18	Mr Hasegawa Michihiro <i>Tobetsu Planning Dept. Manager</i>	長谷川 道廣 (当別町企画課長)
19	Mr Ito Mitsuru <i>Steering committee, Sapporo Philharmonic Orchestra</i>	伊藤 充 (札幌フィル運営委員長)
20	Mr Sugama Toru <i>Runs Sapporo restaurant Churaura</i>	洲鎌 亨 (ちゅうらうた)
欠席	Mrs Sugama <i>Runs Sapporo restaurant Churaura</i>	洲鎌 夫人 (ちゅうらうた)
22	Ms Sugama Sara	洲鎌 さら (ちゅうらうた)
23	Ms Wajima Miki <i>Project Manager, Swedish Center Foundation</i>	和島 (スウェーデン交流センター)
24	Mr Takamatsu Kaname <i>Swedish Center Foundation</i>	高松 要 (スウェーデン交流センター)

三番目は、3月5日～7日駐スウェーデン日本大使館山崎大使の、昨年に引き続きの来道です。海外駐在の大使が一時帰国して一堂に会し、政府からの方針伝達やそれぞれの方針伝達やそれぞれの任地の状況報告などを行う会議後、日瑞の自治体・民間交流の実態を日本側から見たいとのことで来道されました。スウェーデン赴任後、当別町との交流を続けるダララ地方レクサンド市や枝幸町と交流を続けるソレフティオ市やウメオ市等も訪問されています。

昨年2月13日14日の来道の際は、初日にウメオ大学で研究された経験をお持ちの北海道大学経済学研究院 町野教授、北海道 辻副知事を訪問し、北海道大学の鈴木彰ノーベル賞受賞記念ホールも見学されました。歓迎レセプションにはスウェーデン関係諸団体の主要メンバーや、遠路はるばる枝幸町から村上町長にもお越しいただき、姉妹都市交流についてお話頂きました。翌14日は、札幌市 秋元市長を表敬訪問した後、当別町へ向かわれ、宮司町長を表敬訪問され、スウェーデン交流センターも見学されております。

今回は、枝幸町さんをぜひ訪問したいとご希望され、約5時間半の都市間バスの旅を選択されました。3月5日月曜日早朝に羽田をたち、新千歳空港経由で札幌へ到着されて後、11時30分札幌バスターミナル発枝幸ゆき「特急えさし号」に乗車しました。枝幸名産の毛ガニのイラストが描かれている車両は枝幸町が購入して宗谷バスに運行を委託しているとか。

6日火曜日は午前中にかけて、姉妹都市交流の歴史などについて役場関係者、町議会関係者の皆さんから説明を受け意見交換を行いました。また、午後は町内の先進的な畜産・水産業関連施設、「オホーツクミュージアムえさし」などを見学しました。この「オホーツクミュージアムえさし」はオホーツク



ロンドール大使歓迎屋敷会 様 御席

Valkomst lunch med Ambassadör Magnus Robach
Hokkaido Sweden Society
2018年2月4日 2018-02-04

Restaurang Rondo, Century Royal Hotel, Sapporo

Celé à la nypon soppa med torr frukt
Basilika frö kokosnötsflinga valnöt

◀本日のアミューズ▶
ドライフルーツ入りニイボンツツパ風ジュレ
バジルシード ココナッツフレーク 胡蝶バケット

marinade pilgrimsmuslor från Esashi,
sjöborrar, laxrom och sallad
枝幸産帆立貝と海の幸のマリネ
狸丹 イクラ サラダ添え

grönsaksoppa med 'nanatsuboshi' ris från Tobetsu
当別産ななつぼし入り本田野菜のスープ

Fisksoppa med Hokkaidos skaldjur
北海道鮮魚のフィッシュパスタ

kottbullar, poelé med fläskfile från Tobetsu 'smile pork'
ミートボールと当別産スマイルポークヒレ肉のポウレ

Pyttipanna med Kitaakari ris från Tobetsu, sås med blåtry från Esashi
枝幸産ハスカップのソースで当別産きたあかりのペティパンナ添え

efterrätt デザート

brödパン

organisk kaffe オーガニックコーヒー

お飲み物 [フリードリンク]

01 ビール
vin ワイン(赤・白) whiskey ウイスキー
brännvin 焼酎 (芋・麦) sake 日本酒
laskdryck (apelsin juice, oolong tea)
ソフトドリンク (オレンジジュース、ウーロン茶)

chef, Kouki Furukawa

svensk översättning Kazuhiko Kawasaki

RONDO
RONDOR RESTAURANT

クの自然、先史時代やオホーツク人の埋蔵文化財などが多数展示され、見ごたえのある展示品の見学に2時間以上の時間を要しました。また、これらの収蔵品発掘の端緒を開いた枝幸町教育委員会 故佐藤隆弘 係長のエピソードもお聞きすることができました。このエピソードについては、司馬良太郎著「街道をゆく38 オホーツク街道 佐藤隆弘 係長」(朝日文庫P299)に詳しく記述されていますので、ご一読をお勧めいたします。

〈北海道スウェーデン協会理事長 横山 隆〉



発行人

北海道スウェーデン協会

会長 加藤 誠

〒062-0911

札幌市豊平区旭町3丁目1-7 北海道東リビル3階
（株）アラゼン内

TEL (011) 837-8411

印刷／（株）アイワード

札幌市中央区北3条東5丁目

TEL.241-9341 FAX.207-6178